

一年を振り返って

区長部

コロナ禍から日常回帰へ

区長部長 笠原秀次郎

国民生活も、そして私たちの自治活動も、令和4年度とりわけ前半は新型コロナの影響を色濃く受け、例えば区長部所管の戦没者追悼式が開催できないなど厳しい状況が続きました。しかし後半からは日常回帰への地道な取り組みが徐々にですが始まりました。

10月30日、コミわか役員総出で準備した「若槻総フェスタ」を3年ぶりに開催。コロナ禍の下、飲食コーナーこそ控えましたが、バザーや郷土芸能、キッズコーナーなど、500人余の入場者を記録、地域の住民が久しぶりに仲間やご近所さんとの交流を楽しみました。

11月に川中島町住民自治協議会を訪ねて行われた区長部研修は示唆に富むものでした。同住自協は、千曲川が氾濫した2019年の台風19号災害を教訓に、有事の際に助けを必用とする人をピックアップし、その情報を隣り組の地図（支え合いマップ）に

落とし込むという取り組みを始めています。地域の取り組みには温度差もあるようですが、こうした「共助」の考え方を、私たちの若槻地域の日常生活の中にも取り入れることができないか考えさせられました。

今年度はこの他、「ようこそ市長室へ」では代表が市長室を訪ねて荻原市長や市の幹部と懇談、他に「あいさつ運動」などは例年通り実施しました。

新型コロナの日本上陸から丸3年、コロナは私たちの日常生活をすっかり変えてしまいました。肉親を亡くした人、仕事を失った人も少なくありません。コロナの感染が今後どう推移するかは分かりませんが、国はコロナに対する考え方を大きく転換しようとしています。コミわか区長部も感染に万全を期しながらも、新しい街づくりに一歩を踏み出したいと考えています。



若槻総フェスタ

生活安全部

本年度を振り返って

生活安全部長 玉井 良明

令和4年度も、新型コロナ禍ではありますが、感染対策を取りながら事業を進めてまいりました。

生活安全部は、防犯部会と交通安全部会の二つの部会活動を通して、若槻住民の安全で安心な生活を送れる地域を目指しています。

【防犯部会事業として】

1. こども見守りパトロール (毎月第4水曜日)
小学校の通学路の主要な交差点に立ち、安全を見守る事業
2. 車で見守るパトロール (毎月第1水曜日)
青パトで、下校する通学路の危険箇所巡回
3. 青少年地区定期パトロール (毎月第3月曜日)
地域内の店舗・遊戯施設などの巡回

以上の三つのパトロール事業を中心に行ってまいりました。

【交通安全部会事業として】

1. 市道への白線塗布 (4月、5月)
スプレー方式により、市道への停止線等に白線塗布する事業
2. 地域交通安全防犯教室 (6月)
本年はコロナ禍により中止
高齢者の交通事故、特殊詐欺防止のために行なう事業

3. 児童への街頭指導 (4月、9月)
各地区毎に児童の安全な通学を見守る事業
 4. 交通安全啓発街頭指導 (7月、9月、12月)
本年はコロナ禍により中止
市の要請により出発式の交通安全街頭指導に参加する
- 以上の四事業 (中止を含め) を行ってまいりました。これからも、若槻地区の子どもたち・高齢者を交通事故・特殊詐欺などから守り、安心して安全な暮らしをしていける地域にするために、今後ともコミわか事業にご支援とご協力をお願いいたします。



こども見守りパトロール